

住化・住武相談室だより

第21号 9月10日

発行 住友化学・住化武田農薬

お客様相談室 0570-058-669

発行責任者 古津 昇

i-農カサイト <http://www.i-nouryoku.com/index.html>

目次

農家さん訪問記	p.1
やさしい農薬の知識 (N013)	p.5
知って得する防除の仕方	p.6
小沼さんが語る「農薬のあゆみ」発刊の思い出		p.7
住化アグログループ紹介 レインボー薬品(株)		p.8
今月のお奨め農薬「キャベツの軟腐病病にバリダシン液剤5」...		p.9
農薬のあれこれ?なぜなに?コーナー.....		p.10
病害虫発生情報	p.11
農薬登録情報	P.12
今月の相談内容から	p.13
最近の「お・・美味しい!」	p.13
コラム・そば談義	p.14
編集後記	p.14



「サンショウクイ(サンショウクイ科)と
サンショウ(マツカゼソウ科)」
技術顧問 富樫作

農家さん訪問記

今回の農家さんは、北海道帯広市で大規模農場を運営されている井上正憲さんです。空港と帯広市街地の丁度中間辺りに位置するご自宅を訪問して、いろいろ興味深いお話を伺うことが出来ました。

井上さんの持論は「儲かっているうちに次の投資を！」

畑作農家 井上 正憲 様

「大正メークイン」はブランド商品

今回訪問した帯広市は十勝平野の中心に位置し、大規模農業が発達した地域です。移動中の車窓から見える畑はどれも広く、それらがどこまでも連なって続くさまは雄大でした。訪問日は、小雨が降るあいにくの天気でしたが、晴天時には日高山脈が眺望でき、素晴らしい景色だそうです。

井上さんの農場は帯広大正農協の区域内にあります。帯広大正農協は馬鈴薯の産地として有名で、「大正メークイン」はブランドになっています。な



井上さんのご自宅で

お、この地は、金時豆の代表的な品種である「大正金時」発祥の地でもあります。最近では気温が高くなり過ぎて栽培に適さなくなり、帯広大正農協では殆んど栽培されていません。

「俺もいつかはトラクター」が夢だった！

井上さん一家は、奥さんと息子さんの三人暮らしです。息子さんも既に就農し、井上さんの農場で働いているので、後継ぎの心配はありません。現在の作付けは、ビートと馬鈴薯がそれぞれ約 11 ヘクタール、コムギが約 18 ヘクタール、長いもが約 3 ヘクタールで、合計で約 43 ヘクタールもあります。

帯広での農業は、お祖父さんが香川県観音寺市から移住して始め、井上さんで三代目になります。最初は小作農でしたが、戦後の農地解放で自作農となりました。井上さん自身が就農したのは昭和 42 年で、その時の土地は約 12 ヘクタールでした。帯広でトラクターが一般的になってきたのは昭和 38 年頃ですが、当時はまだ買えず、農耕馬を使っていました。そして、「俺もいつかはトラクターに乗って仕事をする」と心に決め、がんばったそうです。

土地は昭和 43 年から数度にわたって買い増し、昭和 47 年には 27 ヘクタール以上になりました。念願のトラクターが買ったのは昭和 44 年のことで、当時の粗収入 1 年分に相当する高価な買い物でした。ただ、当時は高度経済成長期であったこともあり、借金も苦ではなく、夢を持って仕事に打ち込めたそうです。



GPS 搭載のトラクターの前で

豊かな十勝の農業は基盤整備のおかげ！



ご自宅横のビート畑

今でこそ十勝の農家は農業だけで十分な収益があり、冬に副業をする人はいませんが、ここまでの道のりは楽ではありませんでした。昭和 30 年代の後半までは、冷害に弱い豆類しか栽培出来ず、そのため経営が立ち行かなくなり、離農する農家が多かったそうです。そして、昭和 40 年代になり、機械化することで、ビートや馬鈴薯のような冷害に強い作物が作れるようになりました。しかし、

機械の導入には膨大なコストがかかるため、この流れについて行けない人達も離農せざるを得ませんでした。この大きな時代のうねりの中で、かつては桜木町北農事組合で 26 戸あった農家が、現在の 9 戸にまで減っています。従って、大規模化は必ずしも積極的なものではなく、離農した農家から土地を譲り受けて行くうちに徐々に進んだ面があります。

また、十勝の耕作地はもともと、雨が降ると畑に水がたまるような状態でした。この欠点

を克服するため、農家は自分の畑に暗渠排水設備を設置し、国は排水を良くするため明渠や河川を整備しました。これらの基盤整備の努力が実を結び、安定した収量を得ることができるようになりました。昭和59年以降、十勝農家の合計粗収入は2000億円を突破し続けており、一昨年からは2500億円を超えています。平成5年の大凶作の際にも、その影響は限定的だったそうです。

茎葉チョッパー処理が売りの「大正メークイン」！

JA帯広大正の「大正メークイン」は、枯凋剤^(注)を使用しないことが特色です。枯凋剤で地上部を枯らす代わりに、ストローチョッパーという機械を導入して、収穫前に地上部を刈り取ります。枯凋剤自体が一般消費者にはそれほど知られていないためか、今のところ、この方法の付加価値を実感することはありませんが、「食の安全」が重視される中で、他産地との差別化要因になることを期待しています。

馬鈴薯栽培で警戒しているのが、最近、発生が見られるようになった「そうか病」です。最も有効な対策は、輪作をきっちりと守ることだそうです。

(注) 枯凋剤：収穫時に邪魔になる地上部の葉や茎を、あらかじめ枯らすために使用する薬剤のこと。

馬鈴薯については、農協の共選以外に、農家自身が箱詰めし、販売のみを農協に委託する「個選枠」が割り当てられます。個選での出荷は共選に比べて収益性が良く、井上さんの所でも、今年は1日1,000ケースのペースで、25,000箱を個選で出荷するそうです。

ビートについては、品種改良によって単位収量が2~3割も増し、以前より収益性が上がりました。ビートは重量ではなく、糖分量に基づいて取り引きされるので、糖度と収量の両

方が大事です。井上さんが栽培している主な品種は「きたさやか」です。この品種は根重が大きくなるので単位収量が上がり、かつ、テンサイの基準糖度である16.7~17度に入るので、同じ耕作面積で大きな増収が見込めます。以前の品種では、砂糖としての収量はヘクタールあたり5トン程度でしたが、一昨年は8トン、昨年も7トンを超えたそうです。

コムギは比較的労力が掛からないため、大規模経営では、ローテーション栽培になくはならない作物です。また、イネ科作物とし

てスイートコーンも栽培していましたが、非常に手間がかかるのでやめたそうです。

帯広大正では、「大正長いも」を新たな特産品として売り出しています。価格は比較的安定していましたが、一昨年に大豊作になってしまい、暴落してしまいました。単位収量が3トンで及第点であるところ、その時は4.5トンも収穫できたそうです。その影響のためか、ほかの産地の長いもの作付けが減ってきているそうです。



茎葉チョッパー処理と明記



馬鈴薯の選別機

将来の夢はグループで付加価値作物をつくること！

将来は農場を法人化し、土地をその法人に貸して、老後はその借地料で暮らしていきたいとのことでした。井上さんがニュージーランドへ行ったときに聞いた話では、経営権を息子に売り、老後はそのお金で生活することが一般的だそうです。



収穫直後のメイクイン

現在、十勝の主要作物であるビート、馬鈴薯、小麦は政府干渉作物のため、補償金による調整により安定した収入が得られていました。しかし、来年からこの制度が大きく変更になります（品目横断的経営安定対策）。その内容には不明な点も多いのですが、十勝農家への影響が非常に大きくなることは間違いありません。

井上さんの持論は「儲かっているうちに次の投資を！」ですので、今回の制度変更が始まる環境変化に備えて対策を講じるべきと考えています。たとえば、グループで、自分たちが作った生産物の付加価値を高める取り組みができないか考えているそうです。

また、改革を進める上で、地域の結びつきは大変重要です。お互い親睦を深めるため、たとえば、新しいお嫁さんが来た時に、その人を囲んだ茶飲み会をしています。他にもいろいろな集まりが企画され、お互いの結び付きを強めているそうです。

ほくほくと美味しかったメイクイン！

収穫したばかりのメイクインをお土産に頂き、帰宅後、早速ベークドポテトやホイル焼きの具として頂きました。大正メイクインは崩れにくく、ほくほくとした食感があり、風味豊かで、有名ブランドになるのも当然と感じました。どうもごちそうさまでした。

なお、今回の訪問に際して、帯広大正農協様より井上さんをご紹介頂いたことをお礼申し上げます。
(南)



帯広大正農協倉庫

井上さんは、冬の間使用しないビニールハウスを、冬期限定レストランの会場として提供しています。お店の名前は「スノーフィールドカフェ」で、眼前に広がる十勝平野の大雪原と、その向こうに連なる日高山脈の景色を楽しみながら、本格的なフランス料理が味わえます。詳しくは以下のアドレスをご参照ください。

<http://komni.jp/fieldcafe/index.html>

[目次へ戻る](#)

やさしい農薬の知識 (No.13)

農薬ってクスリとどこが違うの？

クスリを飲んだことのない方はおそらくいないでしょう。クスリは私たちが健康に生活していくのに必要なものですし、程度の差こそあれ私たちは恩恵を受けていると感じています。一方、農作物のクスリとも言える農薬に対する一般の方々の印象はどうでしょうか。医薬との比較(下表)を通じて農薬の特性や特徴について考えてみたいと思います。

直接メリットを受けているかどうかで変わるイメージ

農薬は、農作物の収量・品質の確保や、低価格で安定した供給に欠かせない生産資材です。しかし、一般消費者が直接その恩恵を感じることはありません。同じ品質で同じ価格なら農薬を使用していない野菜・果物の方が良いでしょうが、農薬を使わない栽培の難しさを考えると無理な話でしょう。

一方、クスリを使うことで、カゼの症状が改善され、重い病気が治ります。クスリは私たちの健康を守る上で必要不可欠なもので、私たちはクスリによって大きな恩恵を受けています。

また、例えばクルマです。クルマは私たちの生活に不可欠とも言える便利な道具で、クルマのない生活は想像できないくらいです。一方で、そのクルマのために毎年 7,000 人が命を失っているのも事実です。誰もクルマは危険だからなくせとは言いません。

人は自分が直接メリットを受けているかどうかで、その対象に対するイメージ(良いイメージか悪いイメージか)は左右され、また、その対象に対して抱くリスク(危険性)の程度も大きく変わります。

コントロールできないリスク(危険性)を過大に評価

クスリは体内で効果を現すほどの量(薬効量)を投与されるので、比較的摂取量が多く、時には副作用まで現れることがあります。そんな時は、医者に相談したり、服用を止めたりして副作用を自ら回避することもできます。また、クルマの運転には事故がつきものですが、自分はルールを守って安全に運転するから大丈夫、と人は思いがちです。

一方、私たちは作物に残った農薬の摂取を回避できません。農薬を使用すれば極めてわずかな量ですが農作物に残り、私たちは毎日の食事でそれを摂取することになります。農薬を使用しないで栽培したのもありますが、その生産量は極めてわずかで、私たちの毎日の食卓をにぎわすのは困難です。

人は自分で回避可能なリスク(危険性)より回避できないリスクを過大に感じます。それが、作物に残った農薬の影響がなんとなく心配だ、という印象に結びついているようです。

クスリより厳しい農薬の安全に対する考え方

クスリの悪影響(=副作用)は、その効力との比較なのである程度容認せざるを得ません。花粉症の症状を改善のために多少眠くなるのは仕方がない、すなわち多少のリスクは容認するという考え方です。一方、毎日の食生活による農薬の摂取で私たちの健康に悪影響を及ぼすこと、すなわち健康にリスクがあることは到底容認できるものではありません。そのため、農薬ではクスリと同じかそれ以上の各種安全性に係る試験が実施され、安全性が確認されたものが登録(=許可)されています。また、私たちが毎日の食事を安心して食べられるように、作物に残る農薬の量*は厳しく規制されています。(原)

* 急性的な毒性(経口、経皮、吸入)、長期摂取による慢性的な毒性、眼・皮膚への刺激性、皮膚アレルギー性、変異原性(遺伝子への影響)、催奇形性・繁殖毒性(子供・胎児、生殖・繁殖への影響)、発がん性、神経毒性などの毒性試験があります。

** 食品衛生法に基づく残留基準として規制。一生涯にわたり摂取しても何ら健康に影響しない量として設定されています。

表 農薬と医薬の特性比較

	農薬	医薬
対象	全国民	患者(全国民)
摂取量/投与量	極少量 (作物残留量)	比較的多量 (薬効量)
受益感覚	無し	大
回避の方法	ほとんど不可	可
悪影響/副作用	容認不可	容認可
毒性試験	ヒト臨床以外	環境影響以外
安全性の確保	絶対的	相対的 (薬効/副作用の比較)



[目次へ戻る](#)

知って得する防除の仕方

ねぎを加害する「ネギアザミウマ・ネギハモグリバエ」防除について

青々とした「ねぎ」の葉が林立する中で、葉がカスリ状に白くなるのはネギハモグリバエやネギアザミウマの被害です。

白斑になってしまうと商品価値や生育に大きく影響が出ます。ネギハモグリバエは5月に越冬成虫が現れ、秋までに5～6世代の成虫が次々とねぎ類の葉組織に卵を産み付けます。ネギアザミウマは年に10世代以上発生をくり返します。夏では2～3週間で1世代を終了し、加害を繰り返します。この為、定期的な薬剤散布が必要です。同一の薬剤の連続散布では、合成ピレスロイド剤で抵抗性を獲得した個体群が報告されています。

防除方法として、残効性が長い薬剤を、栽培作業に合わせて処理するのが賢い方法です。薬剤に、ベストガード粒剤とダントツ粒剤があります。ともにネギハモグリバエとネギアザミウマに卓効を示すネオニコチノイド系の殺虫剤です。両剤を組合わせた防除方法は、次の通りです。



マメハモグリバエ

まず、ねぎの定植時に「ベストガード粒剤」10アール当たり6kgを植溝処理土壌混和します。その後、3～4回土寄せ作業が有りますが、その際に「ベストガード粒剤」を10アール当たり6kgか「ダントツ粒剤」を10アール当たり3～6kgを株元処理をしてから、土寄せをします。この方法で収穫期までネギハモグリバエやネギアザミウマからねぎを守ります。

その他の害虫として厄介なシロイチモジヨトウの防除には、新規化合物の「プレオフロアブル」の散布が十分な効果を発揮します。（富樫）



ネギアザミウマの被害



ネギアザミウマの被害



シロイチモジヨトウ幼虫

[目次へ戻る](#)

小沼さんが語る「農薬のあゆみ」発刊の思い出

昭和35年に今の『農薬要覧』の原型となる「農薬のあゆみ」を、植物防疫課新設10周年記念事業として発刊する際、小沼さんは多大な尽力をされました。その当時のことをインタビューしました。

小沼さんは、農水省を途中退職されてから40年以上にもなりますが、今でも日本の食料問題について真剣に考えておられることに感心します。

例えば、以下のようなことをお考えです。戦時中は日本の傀儡国であった満州で、水稻を栽培していた。それは、日本の稲作技術が優れていたためだ。今後の食料問題に関連する技術協力としては水稻栽培関係が第一となると思われる。



また、世界の耕地面積は約50億ヘクタールで、うちわけは牧草地が35億ヘクタール、棉花などが6億ヘクタールで、穀類の小麦・稲・トウモロコシ・大豆などを栽培しているのは残り約9億ヘクタールである。地球の人口は約65億人で、日本は約1.3億人(2%)です。しかし、日本の耕地は450万ヘクタール(0.5%)で人口に見合うだけの耕地がなく、今のところの食料自給率は40%と先進国の中では最低となっている。スイス・イギリスなどが永年の努力の結果70~80%台に改善していることをみると日本も日本なりの努力が必要と痛感しています。

また、農林省時代の思い出として特に心に残るものは次の3つです。

1) 昭和30年の大豊作

昭和28、29年と病害虫の発生が多く、計画通りの食糧が確保出来なかったのが農林省は追い込まれた状況であったが、幸いにも昭和30年は有史以来の好天に恵まれて大豊作になり、自然の絶大なる力を今更ながら知った次第で、それにより、農水省もやっと自信を回復しました。

2) 農薬輸入の自由化

昭和31年10月当時の河野農林大臣は事務局の反対を無視し、農薬の輸入自由化を決めた。大臣には政治家として色々な考え方その他があったのであろうが、このため外貨の浪費、安全性を巡る事態の多発、業界・農家の混乱などが起こった上、農林省としては法律の改正など多くの対応策に振り回された。

3) 国会議員の行政への圧力

有力な国会議員は、その選挙区の住民のためと称して利害の絡む案件を各省庁に持ち込む例が結構多かったようです。各省庁も慣れたもので、責任者(課長・課長補佐)は議員会館へ出かけたり対応することはまずなく、担当者を派遣するなどして、差し障りのないよう処理するのを通例としていました。お陰で我々は何回も議員会館を訪れる羽目になるわけです。国会議員の顔を立てながら、要望に関わる法律や具体的な対応窓口機関、関係する事態の概要の説明などを行います。国会議員 役所 業界の三角関係は昭和50年頃までは役所側が力があつたが、数度のオイルショック後は民間側の力が強くなり、今日まで体制に変化はないようです。(完)

小沼良明氏のプロフィール

昭和23年	農林省農政局資材課(農業・農機具)
昭和26年	植物防疫課
昭和39年	住友商事(株)に転職(農薬課)
昭和54年	東部化成・西部化成両社社長(住商兼任)
昭和55年	住友商事(株)農薬第一部
平成元年	住友商事(株)退社
"	東部・西武化成社長継続
"	(株)アグロス副社長
平成6年	3社の役員退任

(小沼様・・・インタビューにお答え頂きありがとうございました。日本農業のあるべき姿について今後とも助言ください。そして、いつまでもお元気でお過ごしください。)(古津)

[目次へ戻る](#)

住化アグログループ紹介

レインボー薬品株式会社

< アンブル型植物活力剤の歴史 >

今やお馴染みのアンブル型植物活力剤。どのご家庭でも1度くらいは使われた経験があるのではないのでしょうか。このアンブル型活力剤は、昭和45年にレインボー薬品より世界で初めて、植物のビタミン剤「レインボーフラワー液」として発売されました。

発明のきっかけは、当時の社長であった塩井一浩が病院の廊下を歩いている際、点滴をしている患者さんを目にして閃いたことから。「植物だって健康になりたがっているはず。」「植物を健康に育てたいと願う人は多いはず」この2つの考えから、弱った人を回復させるもの=点滴 ビタミン剤 アンブル型...、と発想を広げ、アンブル型の植物のビタミン剤が誕生したのです。

発売当初は全く新しい商品だけに理解されず苦勞を重ねましたが、努力の結果、家庭園芸の定番商品としての地位を獲得しました。現在では「レインボーフラワー液」だけでなく、観葉植物、花など用途別活力剤、チツソ・りん酸・カリを配合した「住友液肥アンブル」などの幅広い商品を取り揃えています。

アンブル発明から36年目の今年、日本初の殺虫肥料アンブル「レインボーフラワーEX」を発表しました。薬剤が手に付いたり空気中に舞ったりすることがなく、植物の株元にアンブルを挿しておくだけで、栄養補給とアブラ



レインボーフラワー液



レインボーフラワーEX



使用中のレインボーフラワーEX

ムシの防除が同時にできるという優れたものです。

レインボー薬品は植物用アンブルメーカーのパイオニアとして、高い品質の維持と新たな性能開発にこれからも努めて参ります。

[目次へ戻る](#)

[レインボー薬品ホームページ](#)

<http://www.rainbow-f.co.jp/>

今月のお奨め農薬

キャベツの軟腐病にバリダシン液剤5

葉物野菜である「はくさい」「キャベツ」「レタス」などの夏秋栽培で重要な病害はバクテリア病です。

その代表的病害には軟腐病（エルビニア菌）、黒腐病（キサントモナス菌）、腐敗病（シュウドモナス菌）などがあります。いずれの病害も防除が困難で、農薬による防除と耕種的な防除の組み合わせが必要です。

病原菌は、いずれも土壌や作物残渣で感染します。また、台風などの風水害、虫害や中耕などで出来た傷口や水孔にド口がはね返ったりして菌が侵入し、結球期に急速に発病が広がり被害が発生します。防除は予防を主体に薬剤散布します。育苗期や定植後から定期的に予防散布しますが、特に結球初期の防除が重要です。また、台風の通過前後の防除も重要で、傷口からの侵入を抑えます。

薬剤では、バリダシン液剤5がキャベツの軟腐病・黒腐病に有効で、株腐病（リゾクトニア菌）の同時防除ができます。高温時の薬害の心配もありません。はくさいの軟腐病に効果があり、レタスの腐敗病・軟腐病とすそ枯病（リゾクトニア菌）にも同時に防除ができます。

スターナ水和剤もバクテリア病に効果があり、キャベツ・はくさい・レタスなどの軟腐病・黒斑細菌病・腐敗病などに登録があります。スターナ水和剤の成分オキシニック酸に、ストレプトマイシン剤を混合したマテリーナ水和剤、有機銅剤とオキシニック酸の混合剤であるナレート水和剤があります。また、リゾレックス水和剤の成分でトルクロホスメチル剤と混合したソータル WDG もあります。これらの混合剤はバクテリア病害への効果を強化することが出来ますが、高温時に薬害の恐れもありますのでラベルをよくご覧になってご使用ください。

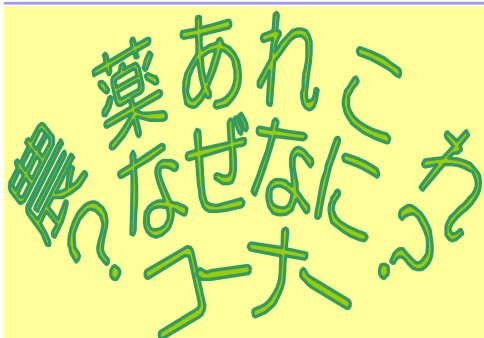
バクテリア病は、べと病やすそ枯病などの糸状菌の被害部から侵入することもあります。そこで、これらの病害に効果のある薬剤と組合わせた防除が重要です。また、バクテリア病害の多発畑では耕種的防除が有効です。具体的には、アブラナ科野菜以外の作物と組み合わせて輪作したり、高温時の播種を避けたり、畑の排水をよくしたり、食害性の害虫の防除や発病株の残渣を出来るだけ集めて処分したり、抵抗性品種を選ぶなどしてください。

要は、総合的な防除が必要です。



（富樫）

[目次へ戻る](#)



農薬の「登録」って どういう意味?

ご質問

こんにちは!

私は農薬を使って作物を育てています。最近では農薬の使い方についても、いろいろと厳しくなってきましたね。私も日々気をつけながら使っているのですが、最近よく耳にする「無登録農薬」や「無登録作物」「登録外使用」などにあるような、「農薬の登録」というのは、どういうこと(制度)なのか簡単に教えてください。今さらながらお聞きするのは恥ずかしいですし、ラベルどおり守って使えば大丈夫ということはわかっていますが、わかっているつもりでも、わかっていない部分がありそうなので……。確認のためにもどうぞよろしくお願ひします。

お答え

農薬は医薬品と同様、国によって審査され認可されるものです。国に認可されたものが登録農薬です。

登録農薬には、農林水産大臣より農薬登録票が交付されます。農薬登録票には、「登録番号」、「登録年月日」、「登録の有効期間(3年ごとに更新が必要)」、「農薬の種類・名称」、「物理的・化学的性状」、「有効成分・その他の成分の種類と含有量」、「適用病害虫の範囲及び使用方法」、「製造業者の氏名・住所」、「製造場の名称及び所在地」が記載されています。

また、「適用病害虫の範囲及び使用方法」として、「作物名」、「適用病害虫名」、「使用量又は希釈倍数」、「使用時期」、「使用回数」、「使用方法」、「その成分を含む農薬の総使用回数」なども記載されています。

すなわち、このような農薬登録票が交付されていないものが「無登録農薬」、登録票に記載されている作物以外を「無登録作物」、登録票に記載された使用方法以外の使い方をすると「登録外使用」となります。

農薬が登録されるには、作物ごとに効果試験、薬害試験はもちろん、人体他への安全性のために、急性毒性試験、慢性毒性試験、次世代に及ぼす影響試験、催奇性試験、残留試験、魚毒性試験など数多くの試験をしています。そして、その農薬を一生懸命食べても安全な量が算出され、さらにその1/100以下の量しか摂取されないように、作物の範囲、使用時期・回数が決められています。

したがって、農薬は登録内容を守って使用している限り、農薬を使用した作物を一生懸命食べても安全が保証されています。

(佐伯、稲葉)

[目次へ戻る](#)



病害虫発生情報

8月～9月初旬に各県から出された病害虫警報・注意報・特報から、主要なものをお知らせします。

水稻

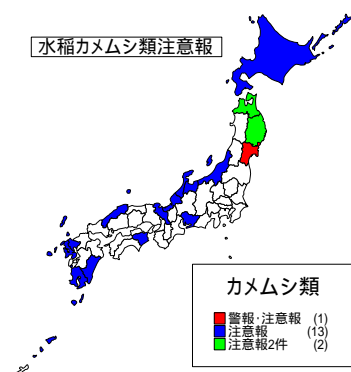
斑点米カメムシ類

注意報：青森・佐賀・長崎県

斑点米の発生による品質低下を防ぐため、出穂期頃より徹底した防除が必要です。

ダントツ剤による防除がお勧めです。省力的に散布できるダントツ粒剤は出穂期～穂揃い期に使用すると効果的です。斑点米は発生すれば等級が下がるため、出穂期頃より2～3回の防除が必要です。

水稻カメムシ類注意報



トビイロウンカ

警報：宮崎県

注意報：山口・福岡・大分・佐賀・鹿児島県

7月から8月にかけて、九州全県で注意報が発令されました。非常に増殖率の高い害虫です。水稻の株元を注意深く観察し、成虫及び幼虫が100株当たり20頭以上発生していると、薬剤防除が必要です。ダントツ粉剤・粒剤、その混合粉剤などでの防除をお勧めします。

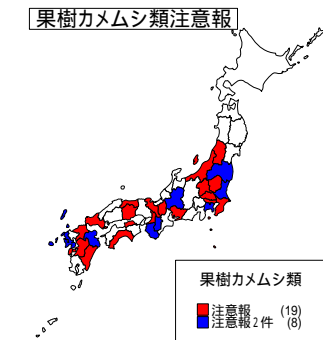
果樹全般

果樹カメムシ類：山形・神奈川・岐阜・和歌山・福岡県

今年は越冬密度が高く、早い時期から果樹園へ飛来しています。飛来量は園地により異なりますので、園内でカメムシの発生を見かけたら早めの防除を心がけてください。

当社の果樹カメムシ類防除薬剤としては、アグロスリン水和剤・乳剤、アディオン乳剤・フロアブル、ロディー水和剤・乳剤などの合成ピレスロイド剤、ダントツ水溶剤、スミチオン水和剤・乳剤があります。(薬剤により、使用できる作物が異なりますので、ご確認の上でご使用ください。)

果樹カメムシ類注意報



(稲葉)



[目次へ戻る](#)

農薬登録情報

8月16日、9月6日付けの主な適用拡大内容です。



新規登録

嵐ダントツ箱粒剤

(8月16日付け登録)

農林水産省登録：第21750号

作物名	適用病害虫	使用量	使用時期	総使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 ウガ類 ツグノコバイ イネズゾウシ イネノオムシ	50g/育苗箱 (30x60x3cm 使用土壌約 5L)	移植3日前～ 移植当日	本剤：1回 カチアジソン：4回 (育苗箱散布は1回、 本田では3回) オキサトピロン：2回 (育苗箱散布は1回、 本田では1回)	育苗箱の 上から 均一に散布

適用拡大

薬剤名	変更点	作物	病害虫名	使用量	内容
ダントツ粉剤 DL	作物追加	だいず	アブラムシ類 カメムシ類	4 kg/10a	収穫7日前まで/ 3回以内/散布
ダントツ H粉剤DL	害虫追加	稲	ニカメイチュウ フタオビコヤガ	3～4kg/10a	だいず：アブラムシ類、 カメムシ類の使用量を 3～4kg/10aに変更
		だいず	フタスジヒメハムシ		
	作物追加	水田作物、畑作物 (休耕田)	カメムシ類		4回以内/散布
アディオン乳 剤	作物追加	食用亜麻	ヨトウガ	2000倍	収穫14日まで/ 2回以内/散布
	害虫追加	もも	ハマキムシ類	3000倍	
いちじく		イチジクヒトリモドキ			

薬剤名	変更点	内 容
イッテツ ジャンボ	使用時期の 追加 他	「移植後15～25日(ルI2.5葉期まで)(移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用)」、適用地帯「関東・東山・東海、近畿・中国・四国の普通期及び早期栽培地帯」 他
ゴヨウダ ジャンボ	使用時期の 追加	「移植後12～25日(ルI2葉期まで)(移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用)」、適用地帯「近畿・中国・四国の普通期及び早期栽培地帯」

(稲葉・佐伯)

[目次へ戻る](#)

今月の相談内容から

ナメクジの防除に「パダンSG水溶剤」

質問 レタスやキャベツに、ナメクジが発生して困っています。圃場でナメクジに効果のある散布剤を教えてください。

回答 「パダンSG水溶剤」が、レタスのナメクジ類とナモグリバエに登録があります。

ナメクジに対する「パダンSG水溶剤」は、散布液が直接かかると効果があります。但し、直ぐには死なないのですが、散布5日後の調査では1,500倍濃度で50%の死虫率をあげております。散布液がかかった葉(はくさい)をナメクジが食べても死なないようですが、ナメクジの活動を抑制して食害を防止する効果があります。本剤は、コナガやアオムシにも登録がありますので同時防除が可能です。(富樫)



[目次へ戻る](#)

最近の「お・・・美味しい!」

弊社相談室紅一点!の佐伯がお送りします
最近の「お・・・美味しい!」
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、
毎月「これぞ!」というものを紹介します。
どうぞお楽しみに♪♪♪



「『ひやしあめ』 ありました」

右の写真でお抹茶とお菓子と一緒に写っている「紅茶みたいな色の飲み物」。これ何だと思いませんか?関西地方の夏の風物詩「ひやしあめ」です。関西にお住まいの方にはお馴染みかもしれませんね。先日8月終わりに京都へ遊びに行った折、久しぶりに飲みました。



今回は ひやしあめ(上) が主役

その日は朝からとても良い天気。日傘片手に、清水寺

への道をひたすら登り、世界文化遺産を拝んで、降りてきたところにあった休憩処にて一杯。暑くてさすがに体力消耗したな~と思って飲んだ「ひやしあめ」は、飲んだ瞬間甘く、生姜の風味だけ口に残る味わい。そのやさしい甘さに「あ~生き返る~!」と思いました。甘くても生姜の爽やかな感じ



「ひやしあめ」あります

がクセになりそうです。この飲み物は麦芽飴に生姜を加え水で溶いたもので、「ひやしあめ、あります」という文字が店の軒先にかかり始めると、関西の方は「ああ、もう夏やなあ」と思うそうです。また、何かのウェブサイト「ものすごく美味しい飲み物でもないが、夏になるとつい買ってしまう人が多い」とあったのですが、なんだか妙に納得してしまいました。(笑)

(佐伯)

[目次へ戻る](#)

コラム・そば談義

先日、御嶽山（東京・奥多摩）に咲くレンゲショウマ（キンポウゲ科）を観にいった。小雨のためか見物人もまばらで、薄暗い木立の中に咲く淡いピンクの花はそれなりに風情があった。

一昨年、この花を観に来たときも、今日のような天気で地面がぬかるんでいた。そこで、思い切り滑って転んで背中を痛打した。それがきっかけで、左右の肩が交互に五十肩になり、最近やっと痛みが取れてきた。そのこともあり、厄払いを兼ねて御嶽神社に訪れた。

花を愛でたあと山門の近くまでくると、茶店が軒を連ねたところがある。右手、最初の店のオバちゃんから「ちょっと店を覗いていかな～い。キレンゲショウマが咲いているよ」と、声掛けられた。花好きの女房はすぐに反応して店内に吸い込まれていく。

そのときに、ちょっとしたアイディアで商売は繁盛するものだと思った。この時期、ここにくる多く的人是花好きだと思う。そして、この山には自生していないキレンゲショウマが咲いていれば、客は自然と店に入ってくれるだろう。店に入れば土産も買い食事もしてくれるだろうという魂胆だ。案の定、この雨の日、ほかの店は殆んど客がいない。そこで、我が相談室も、お客様が満足して弊社に好印象をもってもらえるよう、チョットとした機転をきかせたサービスが出来ればと思うのだが。（例えば季節の商品を一言説明するなど）

さて、お昼近くでもあり、花を観ただけで店を出るにはやはり気が引ける。そこでお昼を取ることにし、私は「肉そば」、女房は「肉うどん」をすすった。味はあまり期待していなかったがこれが意外においしく、キレンゲショウマと共に何だか得をした気分になりお礼を云って茶店を後にした。

それから、社殿の前に着くといつもより長くお参りした。「早く肩が治り、また美味しいそばが打てますように」と。
(古津)

【編集後記】

東京駅八重洲口側のビル（大丸デパート）が解体されようとしている。

ビルが古くなったこともあるが、それだけが理由ではない。東京湾から吹いてくる浜風が東京駅のビルで遮られて、周辺の温度が2度前後高くなる。そのため、高いビルを建てずに丸の内側に風の流れをよくして、少しでもヒートアイランド現象を解消し、CO₂削減をしようとの試みだそうだ。

このように、具体的な取組みで目に見えるやり方は非常にインパクトがあり、政府も真剣に考えているのだと人々は感じる。人を動かすには多分こういうことが必要なのだと思う。

さて、農薬のポジティブリスト制度が発足して、3ヶ月が過ぎようとしている。我が相談室にも、それに関する問合せが多数寄せられている。内容は、登録内容の詳細な問合せや、ドリフトした場合の対応策、その分析場所などが多い。それらの質問の内容から、この制度を現場で真剣に取り組んでいることが伺える。よって、出来るだけ早く、国内の農作物は「食の安全」が確保されていると国民から認知して貰いたいと切に思う。



[目次へ戻る](#)